

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272100377		
法人名	有限会社 エーティ		
事業所名	グループホーム ほほえみ		
所在地	静岡県富士宮市大中里1164-1		
自己評価作成日	平成28年1月5日	評価結果市町村受理日	平成28年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2013_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2272100377-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2013_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2272100377-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価 調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成28年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型施設とうたっている通り、秋祭りの際は、山車がホーム駐車場に来て下さり、それを毎年、職員と利用者様と楽しみにしています。地域の寄り合い処でのイベントにも随時声をかけて頂き、地域の方や他の方との触れ合う時間をとても大切に考えております。また隣接する施設との合同のイベントも多々あり、近隣散歩時は季節の野菜を頂いたり、花を見せて頂いたり、動物たちとの触れ合う時間を作ってもらったり、とても友好的な関係を築けています。地域との連携・関係共に良好であり職員・利用者様ともに恵まれた環境にあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者や職員が「利用者は可愛い」と言うように、利用者や職員の明るい笑顔・利用者の自由奔放な仕草は一つの家庭の中にあるような事業所である。食事は手作りで、外出支援やケアプランは家族や友人の意見等を取り入れている。隣接の小規模多機能型施設との共同イベントや地域との交流を通じ、地域密着を目指している事業所である。利用者の健康面では看護師資格を有する職員を採用したり、2か月に1回開催される運営推進会議には市職員や区長・副区長はじめ、7名の民生委員が参加するなど事業運営に対する取り組みも特筆される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちはひまわりのような笑顔で自由な明るい生活が送れるように支援します」という理念を管理者・職員一同共有し取り組んでいる。	理念にあるように、ホーム内は笑顔が絶えず、明るく、日々のサービスの提供場面で利用者本位の支援が行われている。	理念について具体的に行動できるものを勘案し、職員共通認識のもとに理念の実現への更なる飛躍を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設の際、地域の方に集まって頂き理念や取り組みを伝え理解して頂いた。散歩時には顔を覚えて頂き沢山声かけをして頂いている。またコンビニもできたので買い物にも出掛けられるようになった。	日々の散歩や買い物での近隣の人たちとの会話や町内会の行事・会合等に積極的に参加して地域とのつながりを図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時には区長様・民生委員の方々に参加して頂き、行政の方と共に認知症の支援についての理解をお願いしている。地域のイベントにも招待頂き参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、奇数月に開催している。施設内の行事や困難事例の相談を行ったり、また地域の行事を教えて頂き、他の人々の触れ合う時間を作って頂いている。	2か月に1度、奇数月に定期的で開催されている。参加者も家族や区長・民生委員・市職員等多岐に渡り、会議内容も双方向的で出された意見等は運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小規模ホーム部会やイベント行事・研修会などには必ず参加して頂けており市町村からの連絡事項なども行っている。また運営推進会議にも必ず参加して下さっている。	各会議等で市の職員と接触し、事業所の実情や利用者の暮らしぶり・ニーズ等を具体的に伝え連携を深めている。また、認定更新の機会等には書類を持参するなどして、市との協力関係を築くようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則行っていない。「身体拘束0宣言」をし、家族にも理解して頂き、入所時に説明させて頂いている。	研修や勉強会を通じて各職員が「身体拘束ゼロ宣言」をし、身体拘束をしないケアの実践に努めている。また利用者は自由な暮らしができるよう、玄関は施錠しないなどの措置も取られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常にミーティング時など振り返りをするようにしている。2月には研修会にも参加する予定であり、また伝達講習という形で研修を行い皆で統一していくようにする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用している方はないが以前はいたので理解はしていた。研修に参加した職員より伝達講習もあり皆で再理解した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にご家族様の不安や疑問を伺い十分な説明と話し合いを行い、納得頂いた上で契約させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは日々の生活の中から聞き取りを行い、ご家族様からは面会時に聞くようにしている。できる限り要望に添えるよう努力はしている。	2か月ごとに近況報告と写真を貼り付けて家族等に送っており、家族等の評判も良い。また、来訪時やケアプランの説明時には意見等を聴取し、日々のケアに役立たせている。	玄関先へ来訪者に対する受付場所等の整備が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時は全職員で意見や提案をできるような環境を作っている。また随時相談できるように体制を作るよう心掛けている。	会議やミーティング・日常業務の中において職員からの意見等を聞いている。また、日頃から職員とのコミュニケーションを図っており、提案は即実行している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の性格・適正・感性を知り、励ましやねぎらいの言葉を掛けるようにしている。また悩みごとなどは早く解決できるよう精神面でのケアも心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量に合った研修への参加を促している。またミーティングの際、内部研修にて職員のスキルアップを心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模ホーム部会の交流が盛んで合同で行われる研修・新年会・運動会や交換研修にはすすんで参加し情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できるだけ本人様から聞き取るように努力し、本人様との信頼関係が築けるようにしている。聞き取りがむずかしい方は、ご家族様に聞いたり本人様の出すサインを見逃がさないようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談の際、ご家族様の意向や不安なことをじっくり聞き、意向にはできるだけ添えるよう心掛け、不安なことを取り除けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」必要なサービスを導入できるよう心掛けている。時期が来たら他のサービス利用も考え対応できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるため、一緒に作業する中では、常に尊敬し教えていただく姿勢で過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際にご家族様の意見や意向を伺ったり、本人様の訴えなど代弁し、ご家族様との交流の機会を増やせるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方やお友達などが訪問されるケースも増えてきている。ご家族様の許可が得られれば、その方との外出をされたり、以前のような関係を続けている方もいる。	日々の散歩や行事を通じて地域住民との接触を心掛けているほか、友人や知人が訪問しやすい環境づくりに努めている。また、家族や友人との外食や外出など一人ひとりの生活習慣を尊重している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとつの作業を職員を交えた数人で رفتり、外出のプランを話し合ったり、利用者様同士が関わり合う時間を作るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了は入院後に転院、死亡のケースがほとんどになる。入院・転院時はなるべく顔を出し、相談ができる体制はできるよう心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ日々の会話の中などから聞き取る事ができるよう努め、自己決定できない方は、生活歴から考慮したり小さな本人様からのサインを見逃さないようにしている。	入所時の履歴や利用者・家族からの情報を基に意向を把握しているが、日々変化するものでちょっとしたしぐさや表情のサインを見逃さないように努め、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様に随時お伺いし、よりよいサービスにつなげられるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの心身の状態やその日の様子で、過ごし方を変えてみたり、個々の持っている力を発揮できるよう状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の気づきなどは随時報告し合い、ご本人様・ご家族様、場合によっては友人の方などにも意見を伺い、その方に合った介護計画を作成し見直しを行っている。	日常生活状況や医師・看護師・職員の意見を参考にしてケアプランを作成している。時には第三者の立場から、友人の意見も参考にして本人本位のプランに更新している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には毎日の気づきなど記入し、重要な事柄については申し送りノートにも記入して職員への情報の浸透をはかっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるだけご本人様やご家族様の意向を伺い、その時々その方に合ったサービスができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々や民生委員様などに常に協力して頂き、気にかけて頂いています。イベントやその他の集まりなど参加させて頂き、地区の皆様には施設の理解をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様やご本人様の馴染みの医療機関での受診をされている方や希望により協力医療機関の往診を受ける方もいる。	受診は家族の意向を尊重し、殆どが従来のかかりつけ医である。その場合家族対応が原則であるが、協力医の所見やホームでの状況を記録して情報提供を行い、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しているので、看護師を中心に健康管理を行っている。気づきや異変は、すぐに連絡を取り合い必要時は受診や主治医への報告をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関の協力により迅速かつ安心できる対応を行えている。また病院への入院中は家族と連絡を取り合い状態把握に努め担当看護師とも連絡をとるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期ケアの書類を記入して頂き、ご家族様の意向を伺い、ほほえみの方針を説明させて頂いている	最近新たに重度化・看取りに関する指針やマニュアルを整備している。入所時の説明と共に、その時点で医師や看護師・職員等との話し合いを基に、新たに確認書を取り交わし、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、全職員が把握している。ミーティングや防災訓練時に看護師が講師になり実践力アップに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は6月・9月・12月に避難訓練を行った。9月には市区の防災訓練に参加させて頂き、12月は併設の小規模多機能と合同で行っている。近隣の方には日頃から協力をお願いしてある。	日頃から地域との連携を考え、災害時の炊き出しやホームの耐震建物の活用・備蓄の利用等、「お役立ち情報」として提供しながら協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを忘れず、生活歴を把握し、人格を尊重した言葉かけや対応が行えるよう心掛けている。	特に言葉掛けに注意し「ちゃん」や「さん」付けについても、名字の場合や名前の場合等についても区別し、使い分けるよう留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望の自己決定ができる方には、分かりやすく説明し意思表示が困難な方には、選びやすい声かけにて、少しでも自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の為、全て希望に添えられるわけではないができる限りの意向や希望には添えるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際にお化粧をされる方もいます。着替えの際に職員と一緒に選んだり、髪型も訪問の美容師さんと話し合い決めていきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人ひとりの好みのお聞きし、献立を決めることが多くなっている。皮をむくのが得意な方や魚を三枚に下ろせる方など、できることをやって頂き一緒に台所に立つことが多くなっている。	献立は一人ひとりの好みを聞き、生かす努力をしている。残された能力を活かして、手伝いや得意な調理にチャレンジして貰うなど賑やかな昼食風景だった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量はチェックしている。1人ひとりの状態を把握し摂取しやすい形状に変えたり、時間や代替えなど試み、特に水分の不足には注意するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の力量に応じた口腔ケアを行っている。夜間は義歯のつけ置きを行い、清潔を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	「できるだけトイレで排泄を」と全職員で話し合っている。定時・随時の声かけ誘導や「ソワソワが始まった」などの気づきができるように心掛けている。	一人ひとりのパターンを把握している。定時や随時の声掛けだけでなくソワソワ等のサインを見過ごさず、極力トイレへの誘導を心掛け自立への支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に記入し、排便の状態を全職員が把握している。野菜や繊維の多い物、牛乳・ヨーグルトなど、ご本人様の嗜好や希望に応じ摂って頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自己決定できる方には、声かけをしてご本人様の希望に添えるようにしている。そのほかの方はご家族様から意向を伺い、体調をみながら安全な無理のない入浴を心掛けている。	毎日、もしくは1日おきに入浴し、最低でも週2日は入浴している。入浴拒否者もいるが、極力本人の体調や意向を尊重し、安全で無理のない入浴を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の個々の体調をみて、休息をとっていただく場合もある。ご自分で自室へ行かれたり、お互いの部屋を訪問し合う姿も見られる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に薬についての勉強会を開き、1人ひとりの薬の目的を理解するようにしている。屯服使用の指示は記録に残し、全職員で把握するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴や力を把握し、できることをやっけて頂いている。嗜好品や楽しみ事は日常の会話から見つけ気分転換できるよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や近くのコンビニ等へは、その日の天候や希望で随時出かけている。他、地域のイベント事や外食などは利用者様の希望により出掛けている。	その日の天候にもよるが、ホームの周りやコンビニエンスストア・地域イベント等、随時外出支援を行っている。外出時には近隣住民達との交流が盛んである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本ご家族様と相談の上、こちらで預かり管理している。ご自分で持たれている方もいて近くのコンビニへ職員と出掛ける方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的到手紙を書いている方もいらっしゃる。電話については希望に応じかけている。お友達から電話が頻回にある方もいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を採り入れるよう季節の花や行事に関するものを貼ったり、皆で製作したものや展示するなどして居心地のよい環境作りを意識している。	利用者の制作物や季節の行事の写真を飾り、居心地の良い共用空間づくりに努めている。温湿度管理や事業所内の清掃にも留意し、家族アンケートからもその様子が窺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル席・ソファー・和室と利用者様のお好きな所で過ごして頂けるように工夫している。気の合う方同士はその日によって気分を変えている様子。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、家で使い慣れた物や馴染みのものを持って頂くようお願いし、利用者様が少しでも居心地良く過ごせるようにしている。	家族の協力により居室には馴染みのものが多く、その利用者の家庭での暮らしぶりを思わせるような居室など、居心地よく過ごせる工夫がみられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー・エレベーター・手すりを設置し、利用者様が安全かつ自分の力を発揮しやすく、できるだけ自立した生活を送れるよう配慮している。		